

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田 3-4-5	氏名	(株)毎日新聞社 代表取締役社長 丸山 昌宏
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		新聞制作、印刷発行を行うと共に一般テナントも入居している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間															
平成	27	年	4	月	1	日	～	平成	30	年	3	月	31	日	(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	14,983 t-CO ₂	14,888 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,491 t-CO ₂	16,396 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	0.3 %	0.7 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.2 %	0.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>平成28年度は平準化時間帯の電力ピークカットとして新聞ビル冷熱源設備の運用をガス吸収式冷温水機をメイン運転することにより、わずかではありますが、電力削減することができました。更に毎年、進めている照明のLED化の効果もあると思われます。削減目標の達成状況は、わずかではありますが、0.7%の削減率となりました。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

2016年ISO環境マネジメントシステム(14001)認証をやめ、「毎日新聞社大阪本社環境マネジメント事務局」として存続。監査委員や推進委員を置き、全体を8つのユニットに分割し、各ユニットにユニットリーダーを選任し、年6回程度の事務局会議を開催。各推進委員、ユニットリーダー経由の連絡と共に議事内容、決定事項については、環境マネジメント事務局から大阪経営会議に報告。トップダウンで情報、指示が末端まで流れるようにしている。

決定事項は全社社員が閲覧できる社内ポータルHPや各階の掲示板にも掲示される。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	14階編集局の照明をLEDに更新する。(年間85.61t-CO2を削減)	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	1階トラックヤードの照明をLEDに更新する。(年間25.58t-CO2を削減)	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	毎日新聞ビル・毎日インテシオ	コード(1218) 照明のLED化	1階フロアのダウンライトをLEDに更新する。(年間14.09t-CO2を削減)	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	1階フロアの照明をLEDに更新する。(年間4.70t-CO2を削減)	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	13階フロアの照明をLEDに更新する。(年間98.14t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	15階フロアの照明をLEDに更新する。(年間20.36t-CO2を削減)	29年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	9階食堂・喫茶の照明をLEDに更新する。(年間34.45t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	1階毎日ロビー壁面の照明をLEDに更新する。(年間20.36t-CO2を削減)	28年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	毎日新聞ビル	コード(1218) 照明のLED化	B1階フロアの照明をLEDに更新する。(年間80.91t-CO2を削減)	29年度
	レ	人工排熱				30年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1			コード		年度
	GHG排出				～
	人工排熱				年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都品川区大崎 1-11-3	氏名	前田道路株式会社 代表取締役 鈴木 完二
特定事業者の主たる業種		6総合工事業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		土木建築工事の請負、設計並びに監督、土木建築工事の緒材料の製造販売等前項に附帯する一切の事業を行っており、弊社関西支店には営業所を10箇所と合材工場14箇所を保有しております。そのうち大阪府内には、関西支店を含み4営業所、6合材工場があります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 28 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	17,574 t-CO ₂	15,441 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,081 t-CO ₂	15,792 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	2 %	-15.3 %	-6.1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-15.6 %	-5.4 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (合材製造数量 (t)) (温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
事業計画にて設定	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

製造工場の泉北合材工場・寝屋川合材工場の燃焼効率の改善。能力を最大限での運転指導。	
平成29年8月に泉北合材工場・寝屋川合材工場の燃焼装置の改修による燃焼効率の向上改善	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

各事務所所有の車の入替に伴うエコカーの導入、全車GPS機能設置による適切な速度管理と無駄な移動のチェック。プラントにおいては適切なプラント設備の設置と出荷バランスの調整、プラント廃熱利用及び天日干しによる過熱時間の短縮に取り組みます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出	大阪合材工場	コード(1121) 燃焼設備の効率化	プラント新設に伴う燃焼設備の燃費の向上に合わせ、ドライヤーの余熱乾燥装置を設置し、砂の含水比の低減を図る。	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
2		GHG排出	寝屋川合材工場	コード(1121) 燃焼設備の効率化	ドライヤー燃焼方式の変更により、ドライヤー運転効率の向上を図る	28年度 ～ 28年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
3		GHG排出	泉北合材工場	コード(1121) 燃焼設備の効率化	ドライヤー燃焼方式の変更により、ドライヤー運転効率の向上を図る	28年度 ～ 28年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
4		GHG排出	羽曳野合材工場	コード(1121) ドライヤー・バーナーの交換	ドライヤー・バーナーを小型化することで運転効率の向上を図る	27年度 ～ 27年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
5		GHG排出	寝屋川合材工場	コード(1126) LED照明に変更	プラント内の全照明をLED照明に入れ替えることで電力削減を図る	27年度 ～ 27年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
6		GHG排出	大阪中央合材工場	コード(1126) LED照明に変更	プラント内の全照明をLED照明に入れ替えることで電力削減を図る	27年度 ～ 27年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全営業所、合材工場	コード(2121) エコカーの導入	車の入替の際は、積極的にエコカーを導入する	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	全営業所、合材工場	コード(2121) GPSの設置	全車両にGPSを搭載する事で社員のアイドリングや車での無駄な移動を防ぐ	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市八阪町2-1-10	氏名	松浪硝子工業株式会社 代表取締役社長 松浪 明
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医療・理化学および光・電子部品用硝子製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
平成	27年	4月	1日	～平成30年3月31日(3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量		
区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,904 t-CO ₂	5,946 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,463 t-CO ₂	6,594 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況					
区分		削減目標 (29年度)	第1年度 (27年度)	第2年度 (28年度)	第3年度 (0年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0%	0%	0%
		削減率(原単位ベース)	3%	-12.6%	-39.1%
		削減率(平準化補正ベース)	-	-12.6%	-38.4%
		吸収量による削減率	0%	0%	0%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(生産金額)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>①工場内電気設備の使用電力量を調査し省エネ化対応を都度実施 ②空調設備管理の展開(設定温度管理、フィルター及び室外機の定期掃除の実施) ③休憩時の消灯活動展開と電気設備未使用時の電源遮断管理の継続実施 ④電気をあまり使用しない製品の売り上げ減少と電気炉を使用して生産する製品の受注が増加で使用電力も増加。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<p>当社では、2003年5月にISO14001を認証取得。管理部部長を省エネルギー推進体制の長とした管理組織を結成しエネルギー使用量の削減を図っている。具体的には、エネルギー使用量の大半を占める電力使用量について、年度毎の削減計画を策定し、月例環境管理推進会議にてその進捗を把握すると共に改善の検討を図っている。</p>	
<p>日々管理については、24時間電力管理システムを導入しデマンド管理と環境目標達成目的で電力使用者(全社員)へ電力データでP→D→C→A 省エネ対応を実施しています。</p>	

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(1111) 推進体制強化と温暖化対策の認識向上	省エネ推進体制の強化 会社トップの管理部部長を省エネルギー推進体制の長として温暖化対策に関する研修や教育を行う。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(1112) エネルギー使用に関するデータ管理	24時間電力使用量管理システムにて管理部で集中管理しエネルギー使用者(全社員)へ電力使用状況をフィードバック	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(1113) 設備の運転管理	各設備の負荷状況、使用状況に応じ、稼働台数の調整、稼働装置の選択等により合理化稼働を実施	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(1114) 保守及び点検	空調設備のフィルターの清掃、照明機器の清掃、生産設備の保守点検を行い、各設備、機器を良好な状態に維持する。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(1126) 電気の動力、熱変換の合理化	装置の適正運転 不用時未使用時の電源遮断	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(1216) 空調設備の適正使用と合理化	空調機器の温度の適正化を図り、過剰な使用を無くす。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(1218) 照明設備の適正使用	照明器具の照度の適正化を図り、過剰な使用を無くす。	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(2113) 自動車の使用管理	自動車の使用状況管理(低燃費運転及び安全運転) ガソリンの使用状況管理	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度
2	レ GHG排出	本社工場 第2工場	コード(2114) 自動車の適正な維持管理	自動車の適正な維持管理(保全管理)	27 年度
	レ 人工排熱				29 年度

3	レ	GHG排出	本社工場 第2工場	コード(2121)	低燃費車の導入 (21台中12台がハイブリッド車で5台が軽四)	27年度
	レ	人工排熱		低燃費車の導入		～
						29年度

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府八尾市渋川町 2-1-3	氏名	松本油脂製薬株式会社 取締役社長 木村 直樹
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		界面活性剤及びその加工品の製造並びに販売。油剤・蠟・鉍物油及びその加工品の製造並びに販売。合成高分子化合物及び有機化学薬品の製造並びに販売。農芸薬品の製造並びに販売。等を行っており大阪と静岡に各1工場あります。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,164 t-CO ₂	6,033 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,359 t-CO ₂	6,220 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3.2 %	1.2 %	2 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.3 %	2.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (本社工場生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>本年度は、基準年に比べ生産量はほぼ同じであった。エネルギー使用量は、基準年度の98%であった。節電及び従業員の省エネ意識・生産効率の改善などにより目標を達成できた。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境マネジメントシステムを導入しており（ISO14001承認取得済み）。毎月一回原単位・使用量の確認による省エネルギーの進捗状況を確認・検討している。設備の更新時は、省エネルギー及び効率の良い機器を導入する。電気の需要の標準化は、当社周辺住宅地の為作業時間が昼間に限定している。コージェネレーションの稼働率を上げる事で対処する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード(1215) 動力用変圧器 の更新	動力用変圧器を高効率に更新（5台） （年間15t-CO2削減）	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード(1218) 照明器具の更 新・改善	工場内及び現場事務所の照明器具の省エネタイプに更新及び改修（例水銀灯→省エネタイプの蛍光灯）（年間2t-CO2）	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード(1211) 原料溶解設備 の改善	乾式溶解庫より湿式溶解庫に改善し都市ガス使用量の削減（年間10t-CO2削減）	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市西区北堀江3丁目9番10号	氏名	丸一鋼管株式会社 代表取締役社長 吉村 貴典
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に鋼管の製造、加工及び販売を行っており、全国に8工場、7事務所を置いている。うち、大阪府内では3工場で生産を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	15,675 t-CO ₂	14,571 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	17,631 t-CO ₂	16,424 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	6 %	-2.8 %	-5.9 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-2.8 %	-6.1 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量(堺工場に換算))

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

各事業所で生産品目等違うため、下記のように設定した。

- ・堺工場と大阪工場は、生産量(千t)
- ・堺特品工場は、生産本数(百本)
- ・本社は、出勤日数(日)

各事業所の原単位を堺工場に換算し、換算生産量を算出した。

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

生産量が減少となり、温暖化効果ガス排出量は削減したが、原単位については、品質向上目的での設備増により、エネルギー使用量が増加した。また、大阪工場の堺工場への統合プロジェクトにより、生産設備の移設工事を行なったが、ラインが軌道に乗るのに半年ほどかかった。製品値上げにより小ロット化、生産減となり、サイズ替え回数が増え、生産以外のエネルギー使用量が増えた。年々、原単位の悪い製品(生産工程が多い製品)の割合が増えてきている。目標年度と比較すると、さらなる対策強化が必要である。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社では、”地球と自然と人類との共存共栄”を基本理念とし、このパイプ役となるよう努めています。
 また、堺工場、大阪工場及び本社では、ISO14001の認証を取得しており、各事業所でEMSの活動目標を設定し、その目標に沿った形で活動に取り組んでいます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1122) 空調設備 の運用改善	冷暖房の温度設定を最適にする。 (年間 3.33t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) 照明設備の運 用改善	天井照明等の最適な点灯 (こまめな消 灯) を行う。 (年間 12t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 省エネ対策会 議開催	全ての事業所において、毎月省エネ対策 会議を開催する。 (年間 10t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) 高効率電動機 の採用	旧タイプの直流電動機設備を高効率の可 変速電動機に更新した。 (年間 133t-CO2削減)	28 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) 高効率加熱イ ンバータの採 用	旧タイプの加熱設備を高効率インバータ に更新予定。 (年間 126t-CO2削減)	29 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 高効率の照明 器具の採用	天井照明の老朽分をLED器具に更新し た。 (平成27年度) (年間 18.0t-CO2削減) (平成28年度) (年間 29.4t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堺工場	コード (1114) コンプレッサ の点検	コンプレッサの定期点検を実施した。 (平成27年度) (年間 10.4t-CO2削減) (平成28年度) (年間 13.0t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	堺工場	コード (1114) ボイラーの点 検	ボイラーの定期点検を実施した。 (平成27年度) (年間 13.0t-CO2削減) (平成28年度) (年間 11.9t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	堺工場	コード (1126) エアブロー のプロワ化	エアブローのプロワ化によるコンプレ ッサ使用量の削減予定。 (年間 18.3t-CO2削減)	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 変圧器の間引 き運転	生産設備削減のため、変圧器の間引き運 転をする予定。 (年間 11.0t-CO2削減)	28 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) ボイラーの運 転管理	冬期を除く昼休みにボイラーを停止し た。 (年間 13.0t-CO2削減)	27 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

12	レ	GHG排出	堺特品工場	コード(1121) ボイラーとヒートポンプの併用運転	乾燥設備の灯油ボイラーを灯油ボイラーと循環加温ヒートポンプの併用運転とする予定。 (年間 13.1t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	堺特品工場	コード(1217) 給湯設備の更新	厚生棟風呂給湯器を灯油ボイラーからヒートポンプ式に更新予定。 (年間 6.0t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
14	レ	GHG排出	堺特品工場	コード(1218) 照明器具のLED化	事務所蛍光灯をLEDに更新予定。 (年間 3.6t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
15	レ	GHG排出	本社	コード(1218) 蛍光灯の間引き	本社ビル内の事務室・通路・エントランスの蛍光灯の間引き。 (平成27年度)(年間 0.582t-CO2削減) (平成28年度)(年間 0.222t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
16	レ	GHG排出	本社	コード(1218) 階段照明の更新	老朽化した階段照明の更新予定。 (年間 0.502t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
17	レ	GHG排出	本社	コード(1218) 照明器具のLED化	事務室内の照明器具の更新(LED化) (平成27年度)(年間 2.308t-CO2削減) (平成28年度)(年間 0.07t-CO2削減)	27年度 ～ 27年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
18	レ	GHG排出	堺工場	コード(5121) 加熱設備の夜間稼働	電力使用量の多い加熱設備を夜間稼働した。	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
19	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1218) 照明器具のLED化	天井照明をLED照明にした。 (年間 29.24t-CO2削減)	28年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
20	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) 受変電設備更新	特別高圧→高圧化に伴い、受変電設備一式更新した。(追加項目) (年間 35.3t-CO2削減)	28年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2123) 燃料使用量の節約	社用車のアイドリングストップと経済速度での運転、及び必要最小限の使用。 (年間年間0.97t-CO2削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2121) 低燃費車の導入	社用車買い替えの際の低燃費車の積極的導入 (年間0.606t-CO2/台削減)	27年度 ～ 29年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市長田3丁目6番10号	氏名	丸協運輸株式会社 代表取締役社長 渡部 智
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にトラック及びトラクタによる貨物運送を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	2,245 t-CO ₂	2,265 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,287 t-CO ₂	2,338 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-2 %	-0.9 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-2.8 %	-2.3 %	0 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>車両入替、新車購入の際には、低燃費車の導入を行っている。 デジタコの導入によりエコ運転の向上を行っている。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

丸協運輸(株)本社は I S O 14001 を取得しており、環境目標を設定し輸送効率の向上と燃費向上を重点的に取り組んでいます。

- ・毎月部署内会議を行い、輸送効率向上について検討を行っています。
- ・毎月乗務員との個人面談を行い、燃費向上に向けての教育を行っています。
- ・3ヶ月毎に一度部署責任者会議を行い、目標に対しての進捗状況や対策を検討しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 消灯の適正化	こまめに照明設備のスイッチをオフにする。(一つのフロア内で部分的に消灯する)	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2		GHG排出	本社	コード (1112) 空調温度の適正化	冷房温度28℃ 暖房温度18℃の推進	27 年度 ～ 31 年度
		人工排熱				
		平準化				
3		GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 夏服制服を作成導入	クールビスの導入	27 年度 ～ 31 年度
		人工排熱				
		平準化				
4		GHG排出	全ての事業所	コード (1112) 消費電力の低い電気製品の採用	L E D 証明の推進	27 年度 ～ 31 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコ運転の推進	エコ運転の実施	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 燃費データの管理	車両ごとの燃費のデータを管理する。	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコ運転が実施出来ているかの管理	デジタコを導入し、エコ運転の管理を行う。	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 燃費効率の向上	ハイブリット車の導入	27 年度 ～ 31 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府高槻市緑町2-1-3	氏名	丸大食品株式会社 代表取締役社長 百済 徳男
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ハム・ソーセージ等、食肉加工食品の製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	15,882 t-CO ₂	16,580 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,953 t-CO ₂	17,390 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	1.9 %	-0.1 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.7 %	1.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>主要事業所である高槻工場において、総生産量が増えたうえ、小ロット生産の増加・ラインの増設や機械化を実施したため、温室効果ガスの削減に繋がらなかった。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

丸大食品高槻工場はISO14001を取得し、環境マネジメントマニュアルを確立し、実施し、維持している。また、環境保護対策として月に一度推進委員会を開催しており、現状の把握、現状改善の検討、改善項目の進捗状況の報告等をおこなっている。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	高槻工場	コード(4999) クーリングタワーの統合	クーリングタワー統合による省エネ 薬注による省エネ (年間△24t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1199) 蒸気関係の対策	給湯配管断熱、蒸気配管及びバルブ・トラップ断熱、省エネパトロール実施による蒸気漏れ早期発見 (年間△24t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1113) コンプレッサーI V化	コンプレッサーI V化による省エネ (年間△36t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1113) 供給エア圧削減	供給エア圧削減による省エネ (年間△14t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1113) 不要時停止	不要時停止による削減 (年間△14t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1114) 冷凍機の入替	冷凍機入替による省エネ (年間△24t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1113) 解凍機の運転方法見直し	解凍機運転設定見直し、運転方法見直しによる蒸気と電気使用量削減 (年間△32t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1113) 冷凍機運転方法変更	冷凍機運転方法変更による省エネ (年間△24t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1113) 工場照明I V化	工場照明I V化 (年間△10t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	高槻工場	コード(1113) 凍結庫冷凍機運転停止	凍結庫冷凍機運転停止による省エネ (年間△64t-CO2)	27年度 ～ 29年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	関西CS営 業部・大阪 営業所	コード(2123) エコドライブ の推進	エコドライブの推進によりCO ₂ 排出量 の削減をはかる	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				

(3)その他の抑制対策
